



平成30年11月22日

郡市連合音楽会では、素晴らしい歌声を聴かせていただきました。発表、運営に関わられた先生方、大変お疲れ様でした。郡市連合音楽会については、次号お伝えします。

さて、10月10日(水)には教育課程研究協議会が行われました。音楽の授業は、2校に分かれて中川東小の富成明子先生による2年生の音楽づくりの授業(特別支援教育)と、飯島中の沖笑里先生による創作の授業が行われ、貴重な授業を公開していただきました。私は飯島中へ行かせていただきましたが、普段小学生との授業でなかなかうまくいかずに悩んでいた「意図をもって音楽をつくる」ということについて、中学生になるとこんなふうにできるようになるんだ(!)という驚きと、小学校からの積み重ねの大切さを感じました。また、しっかりと小中の9年間を見通して授業をしていかなければいけないなあと感じさせていただきました。

本当は両方の会場に行きたかったのですが、そういうわけにもいかないので、授業者の先生方にご苦労いただき、授業の様子等を振り返ってまとめていただきました。今後の授業に役立てさせていただきたいと思います。お二人の先生方、本当にありがとうございました。

♪連絡♪

ページの都合で、先に連絡をさせていただきます。

プログラム提出のお願い

2学期の音楽会・文化祭が終わった学校も多くあるかと思います。校内音楽会プログラムを年度末に綴じてお渡し致しますので、各校A4サイズ 75部印刷し、提出をお願いします。最終〆切は2月16日(土)の総会時です。その日に持ってきていただいても構いません。

提出先：プログラム集…山崎由紀先生(箕輪南小)



会誌「ハーモニー」原稿提出のお願い

今年度も会誌「ハーモニー」を作成することにしました。来年度からのことについて、詳しくは2月の総会でお話いたしますが、ひとまず今年度でひと区切りになる予定です。ぜひぜひ原稿をお寄せください。

- ・今年度行った研究授業案…とか、
- ・そういえば、あの鑑賞教材は子どもたちがのってきたから、あの学習カードを出してみよう…とか、
- ・こんな音楽集会してます!!…とか
- ・こんなことで困ってます～…とか。

1年をふり返っていただいた内容でも結構ですし、今までの様々な体験の中からのことでももちろん結構です。

A4用紙1枚程度、大きな文字でもかまいません。もちろん、たくさん書くことがある!という方はたくさん書いてください。75部印刷をお願いします。〆切は2月28日(木)です。ぜひ、皆様のご協力をよろしく申し上げます!!

提出先：小林佳美(長谷小)または お近くの広報部員

平成30年度 教育課程研究協議会（研究会1） 特別支援教育（2年生音楽科）の授業実践報告

中川東小学校 富成 明子

本校の研究テーマ

通常学級における特別支援教育

どの子にとってもわかりやすく、見通しをもって学べる支援の工夫
～特別支援学級入級児童や配慮が必要な児童の姿を手がかりに～

「言葉の指示だけではわかりにくい」「学習準備の難しさ」「集中時間が短い」「気を取られやすい」「見通しが持ちにくく不安」等々…特別な支援が必要な子どもの困っていることに、具体的にどのような支援が必要か考え、授業実践しました。

ユニバーサルデザインの視点を生かして

1 集中して学習できる環境づくり（刺激量の調節）

教室の前面は避難経路図のみ、その時間に必要な物のみ
掲示、ガラス戸の目隠し

2 安心して取り組める授業の仕組みづくり

学習のルールづくり、1時間の学習内容の掲示、注目し
て聞ける工夫（話すことを視覚的にもわかるようにする）

3 自信のもてる支援・関わり方

スモールステップ、うまくできなかったことへの共感と
対応、初めの一言はプラスの言葉で、声かけのタイミング、正しい方法を伝える（だめではなくて）



本時のめあてを書いた
ホワイトボードを持って話す

本時の活動は「なべなべそこぬけ」の伴奏づくり

1 楽器を持って演奏することが困難なIさんの姿から

一人ひとり気に入った伴奏をつくる活動で、卓上木琴を使うこと
にした。

- ①楽器を持たなくてよい ②奏法が簡単ですぐ音が出る
- ③使う音にドレミの印が付けられる ④音色がわらべうたと合う
などなど、良い点があった。

また、音が小さくあまり響かないため、一斉に音楽づくりなどの
活動をする際には周りへの影響が少なかった。

さらに、ペア活動の際にはすぐ交替できたり、他の打楽器を交
えたり、歌を歌いながらでき、他の子どもたちにとっても使い勝手
の良い楽器だった。

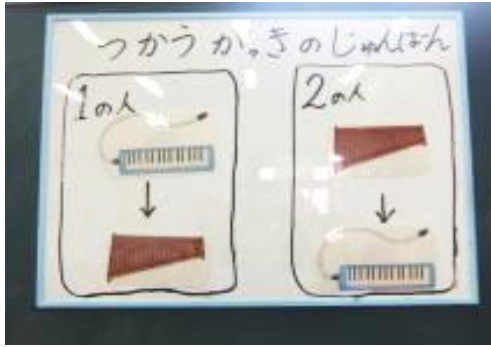
2 安心して活動する支援



ペアの活動場所を決めておく、集中できるようにペアの机の前は壁



卓上木琴をペアに一台準備した



**順番を選択して、自分が納得して
楽器を使うための掲示**

**選んで使える
小打楽器の小箱**

**使わない時は
見えないように
蓋付きがいい**



3 友だちと楽しんで活動する～自分の役割ややり方が分かること～



**伴奏づくりのリズムを、ペアで
向かい合って確かめながら打つ**



**ペアで「なべなべそこぬけ」を
歌いながら 遊ぼう**

初めての伴奏づくりで、「伴奏って何？」とつぶやく子がいました。「自分が一番気に入った伴奏をつくろう」というめあてに向かって、いろいろと試し弾きして、自己と向き合いひたむきに伴奏づくりをする子どもたちの姿があった反面、ラ・〇・〇〇ラ・に、ミ、ソ、ラの音をあてはめることは理解しやすく、すぐできてしまう児童がいたり、適当に卓上木琴の音を鳴らしているような姿が見られたり、課題に向かう姿には個人差がありました。

後半、歌と合わせて伴奏遊びが始まると、ようやく「これが伴奏か！」とわかったように伴奏遊びをする姿がありましたと、参観者の先生に教えて頂きました。



**「ずいずいずっころぼし」
♪お茶碗かいたのだーあれ？
担任の浜田先生がS.Tとして毎時間
入っています。**



次の日、長野県教育センターからお借りしたオルフ木琴で、つくった伴奏を演奏し、歌、遊び、打楽器も入れて小グループで楽しむ子どもたちの様子は、本当に楽しそうでした。



担任の浜田先生と「いつまでも見ていたいね。」と話しながら、本題材を終えました。

教育課程をやらせてもらって正直あまり知らなかった日本音楽について 『どうしたら面白くなるか』考えまくった3か月間のこと

飯島町立飯島中学校 沖笑里

「沖先生さ、日本音楽って好き？」
「うーん、あんまり聴かないというか…」
「だよな？ 良いんだよ、俺だってそうだもん」
「じゃあ、日本音楽の授業は無理ですよな…」
「だからこそ、やればいいじゃん、日本音楽で」
「…鑑賞ですか？」
「いや、創作でいいじゃん」

この方は、何を言って…いや、おっしゃっているのだろうか…？と思いました。
(話の相手は、本当にお世話になった主事の先生です。すみません…)
昨年、歌舞伎の授業をやって、そう簡単にうまくはいきませんでした。
それに、創作の授業もとっても難しかった。
(昨年、1年生の授業で、創作に5時間かけて散々の結果でした。
子どもたち口をそろえて「苦しかった」って言いました。だよな〜〜！私も苦しかった〜〜！)

でも、いろいろ考えて、「日本音楽の創作」でやってみることにしました。
「日本音楽」「創作」というイメージから、私は何をを使うかをすぐに決めました。

「箏だな。」

日本の伝統的な楽器の中で、なんだか自分の中でいちばん魅力的だったからです。
大学生のとき少し演奏をした経験があったので、弾くこと自体に不安はありませんでした。
そんな理由で、「箏だな。」と決めてしまったので…、
とにかく本番寸前まで、漠然とした不安が私をまとっていました。

本番までの過程でたくさんの方に支えていただきました。
主事の先生、音楽委員会の先生方、職場の先輩。
ひとりでは、全くお話にならないレベルで、迷わなくてもよいところで迷っていた気がします。
これでいこう！このスタンスを崩さないようにしよう！
そんなふうに関心を決め、本番までの道を走り続けることができたのは、皆さんのおかげだと思っています。
ありがとうございました。

まだまだ未熟な私がいまだにあまりお話できることはありませんが、
この題材を教育過程でできたことにより、自分の鉄板がひとつできたという実感です。
感じたことや考えたことを書いていきますので、よろしければ読んでください。

題材名 「平調子の音階の特徴を生かして旋律をつくろう ～サクラサク マイプレリュード!～」

対象学年：2学年（ちなみに3学年でも同じ題材をやってみました、できました!）

◆ 題材設定について

◇ 本題材で願う姿

生徒の多くは「我が国の伝統的な音楽」に対して、漠然と「日本らしさ」を感じているものの、その要因となる特徴を理解している生徒は少ない。そこで本題材では、箏を用いて「さくらさくら」の前奏を創作することで「日本らしさ」について考えることができるようにしたいと考えた。ここでは、音を鳴らしながら様々な旋律を試したり、ペア同士で聴き合ったりする学習を通して、「五、四、三と下がっていくと、もう少しで花開きそうなつぼみの様子が表せる」といった「見方・考え方」を生かしたり高めたりしながら「さくらさくら」からイメージした桜の様子を表す旋律を考えていこう。五音のつながり方を工夫することで様々な雰囲気生まれることを体感していくこのような学習を通して、「日本らしさ」について自分なりに考えを深めていくことができると考え、本題材を設定した。

◇ 教材のもつ価値

教材	教材のもつ価値
箏	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な楽器である。 平調子の調弦は、音の選択がしやすく、五音のつながり方によって容易に美しい旋律をつくることができる。
「さくらさくら」の前奏	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらさくら」は日本の代表的な曲である。 桜は日本らしさを象徴する花であり、「咲き誇る」「散る」等、表現したいイメージを深めながら創作活動に取り組むことができる。 オリジナルの前奏を考えることは、自分らしさを表現したり、表現の多様性を認め合ったりする経験となる。

◆ 題材の指導計画（全4時間扱い）

時	学習活動	指導	評価項目
1	(1) 「六段の調」を聴く。 (2) 平調子の音階の特徴に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 「六段の調」を聴くことで、箏曲が生み出す「日本らしさ」について考える見通しをもてるようにする。 音階を視点に比較鑑賞をすることで、平調子の音階の特徴に気づき、その良さを感じ取って聴くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本音楽に興味をもち、平調子の音階を用いて創作する活動に取り組もうとしている。（ア）
2	(3) 3つの音を使って音のリレーをする。 (4) 2小節の旋律をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 平調子の音階の中から3つの音を選び、音のリレーをすることを通して、簡単な旋律がながっていくことを体感できるようにする。 音のつながり方やリズムの例を提示することで、ひとりひとりが2小節の旋律をつくることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの音の上がり下がりに沿って、平調子の短い旋律を創作している。（イ①）
3 本時	(5) 「さくらさくら」の前奏をつくる。	【本時案参照】	<ul style="list-style-type: none"> 音の上がり下がり工夫して平調子の旋律を創作している。（イ①）
4	(6) 前奏を完成させ、発表し合う。 (7) 日本音楽に対する自分の考えを学習カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したい桜の様子を表現できるような前奏を再検討し発表するよう促す。 自分と友の作品を五音のつながり方の視点から比較し、旋律や雰囲気の多様性に気付くことで、日本音楽に対する自分の考えを学習カードに記入できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作した旋律を楽譜に書き表している。（ウ） 日本音楽に対する自分の考えを学習カードに記入している。（イ②）

◆ 本時案

(1) 主眼

平調子の音階を使って2小節の旋律をつかった生徒たちが、「さくらさくら」の前奏を考える場面で、音の上がり下がりに着目して考えたり、ペアで聴き合ったりすることを通して、「さくらさくら」からイメージした桜の様子を表せるような旋律に工夫することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇指導・援助 評価	時
導入	1、「さくらさくら」の前奏を考える見通しをもつ。	<p>ア 満開の桜が思い浮かんだ。</p> <p>イ 桜が開花しはじめ、つぼみからだんだん花を咲かせていく過程が想像できた。</p> <p>ウ 前時につくった2小節をもとに、どのように前奏をつくれればよいのだろう。</p>	<p>◇教師が「さくらさくら」を範奏し、提示した4パターンの桜の絵のうち、どれに近いものを想像したか問いかけることで、表したい桜のイメージをもてるようにする。</p> <p>◇前時につくった2小節をもとに「さくらさくら」の前奏をつくることを伝え、学習問題を提示する。</p>	10
		<p style="text-align: center;">学習問題：「さくらさくら」の前奏をつくろう。</p>		
		<p>エ 音が上がっていくことで、満開の桜の様子が表現できるだろうか。</p> <p>オ 音が下がっていくと、桜が散る感じが表現できるだろうか。</p> <p>カ 音の上がり下がり工夫して、自分がイメージした桜の様子を表現できそうだ。</p>	<p>◇音の上がり下がりを用いていくつかのパターンで旋律を範奏することで、旋律を工夫する見通しが持てるようにする。</p> <p>◇音の上がり下がり工夫して、「さくらさくら」からイメージした桜の様子を表せるような前奏をつくることを共有し、学習課題を提示する。</p>	
		<p style="text-align: center;">学習課題：音の上がり下がり工夫してつくろう。</p>		
展開	2、音の上がり下がりに着目して考えたり、ペアで聴き合ったりする。	<p>キ 「さくらさくら」から静かな雰囲気と満開の桜が咲いている様子を想像したので、為と巾を交互に演奏すると、満開の桜を静かに眺めている様子が表せそうだ。</p> <p>ク 「さくらさくら」から一輪ずつ咲いていくような感じを受けたので、五、四、三と間を入れず下がるのではなく、休符を入れながら下がっていくと、もう少しで花開きそうなつぼみの様子が表せそうだ。</p> <p>ケ つぼみから開花するさまを表すためにどんな旋律にしたら良いか悩んでいたが、Aさんの助言で、十、為、巾と上がることで、花が開く感じを表せることがわかった。</p> <p>コ 旋律が見つからずに悩んでいたが、音が上がっていく旋律を下がっていく旋律に変えてみたら、静かな感じが表現できてしっくりときた。</p>	<p>◆活動前に伝えること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2小節以上4小節以内でつくる。 ・最後の音は「十」か「五」で終わる。 <p>◇音を鳴らして音のつながり方を試したり、できた前奏を通して弾いてみたりすることで、表したい桜の様子を表現できるような音楽に近づけることができるようにする。</p> <p>◇楽譜の横に旋律の工夫やイメージを書くよう促すことで、その旋律を考えた根拠が残るようにする。</p> <p>◇1人目が箏を弾いているとき、2人目がその旋律から感じ取ったイメージを述べたり、わからないところを共有し合ったりするよう促すことで、ひとりひとりを大切にしながら学習活動ができるようにする。</p> <p>◇創作が進まない生徒には、音の上がり下がりパターンを変化させて試すよう促すことで、2小節の中の1カ所だけでも工夫できるようにする。</p>	20
終末	3、本時のまとめをする。 4、数人に発表を促す。	<p>サ はじめは上がったり下がったりして、最後は上がっていく旋律に工夫した。上がったり下がったりすることで花が開いていない桜を、上がっていくことによって花が開いて嬉しい春の雰囲気を表現することができた。</p> <p>シ 音の上がり下がり工夫するだけで、多様な音楽とイメージが生まれることが面白い。</p>	<p>◇「さくらさくら」からイメージした桜の様子を表せるように、どのような工夫によってどのような様子が表れたのか、振り返りシートに記入をするよう促す。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「さくらさくら」からイメージした桜の様子を表す旋律に工夫することができているか。(振り返りの内容から評価する)</p> <p>◇数人の前奏を発表することで、音の上がり下がり工夫によって様々な雰囲気が感じられることの良さを共有し、次時につなげる。</p>	20

#1 「何のために何をするのか」を第1時に伝えることが、生徒の意識につながるんだなあ。

授業案を考え始めた当初は、本時にあたる第3時で「さくらさくらの前奏をつくります！！」と伝える予定でした。しかし、第3時でそれを初めて伝えられた生徒たちは戸惑わないだろうか？第1時に「何のために何をするのか」の見通しがほしい…、そんなご意見を先生方よりもらいました。

「箏を楽しむためっていうことなら「さくらさくら」を弾いたり、箏で合奏したりすれば良いと思うんだよ。でも私、みんなに、あんまり普通じゃない経験をして卒業してもらいたいから、箏で演奏するんじゃなくて箏で創作する授業を考えた！！」

考えて浮かんだのがこんな言葉でした。(あくまで生徒の目線で考えた言葉です)
実際授業でこんな話をすると、生徒はポヤンと私を見ながら話を聞いていたので、どんなことを思って聞いていたのかわかりませんでした。こういうときの語り口調にこもる「熱量」みたいなものは、結構大切なんだなと思いました。生徒は「なんだか先生必死だから、面白い授業をしてくれるのかもしれないな」という良い意味のフィルターがかかって、頑張ってくれるのかもしれない。

「とはいえ、箏で創作するのはきっと初めてだろうから、みんなが納得いく音楽を創作できるように授業をするね」

第1時は、「日本音楽を聴いて日本らしいと感じるのは、旋律が5音からなる平調子の音階で構成されていて、隣同士の音をつなげるとなんだか日本らしく聴こえるんだなあ」ということ、
第2時は「隣同士の音をつなげて、前奏のもととなる2小節の旋律をつくることできた」ということ、

全ては第3時の創作スタートに向けて、そのために今日があるんだよっていうことを、毎回伝えるようにしました。(下線部のところが、第3時のためにつけてほしかった力です)

#2 イメージが先行するか、旋律が先行するか、生徒が取り組みやすいやり方で良いんだなあ。

教育課程の後、3学年でも同じ授業をしました。教育課程の授業研究会において、「イメージと旋律のかかわり」について多くのご意見をいただいたので、3学年の生徒たちがどのように「イメージした桜の様子を表す旋律」をつくっていくのか、観察をしてみました。

A くんの場合

- ① 手始めに、「イメージ」の欄を埋める。(男性と散る桜が登場するストーリーチックになっている)
- ② 旋律をつくりはじめる。ボソッとつぶやく、「これだと散っている感じはしない…」
- ③ 上がっている旋律を下がっている旋律に変えてみる。

B さんの場合

- ① まず、何度も箏を弾く。とにかくいろんな旋律を試す。
- ② 気に入った旋律を見つけ、「工夫」の欄に書いていく。
- ③ 教師「どうしてこういう旋律にしたの？」
生徒「うーん…」
教師「(その旋律を弾いてあげる) これ、桜はどんな様子なんだろう」

工夫

5	
4	
3	
2	
1	
5	
4	
3	
2	
1	
5	
4	
3	
2	
1	
5	
4	
3	
2	
1	
5	
4	
3	
2	
1	

旋律の工夫

イメージ

← 使用したワークシートの一部です。クリップボードを全員分購入し、挟んで使用できるようにしました。

生徒「ゆっくり散っている感じがします」

教師「なるほど、じゃあ「イメージ」のところに書けそうだね」

「イメージをもって、そのイメージに合うように旋律をつくりましょう」と言うこともできたと思いますが、このように、生徒なりの方法で旋律をつくっていく姿を大切にしていきたいと感じました。生徒なりの方法とは言っても、行き着くところは同じにしないとイケないという意識から、旋律をつくる前に、「今回の授業で一番大切なのは、なぜその旋律にしたのか、理由をもつことです。理由をもってつくった旋律が、その人のこだわりになります。こだわってつくりましょう」と言いました。

足並みをそろえなければいけないところをしっかりと示すのが、私。それをもとに自分なりの方法で追求するのが、生徒。

授業にどこまで幅をもたせれば良いのか迷っていたとき、同じ職場の先輩に、「制限された中で自由にやる」という言葉を教えてもらいました。やっていく中で、「このことなのか？」と思えてきました。自分なりの方法で頑張る生徒の顔は、とっても生き生きとしています。



#3 日本音楽を「好きになる」と「特徴をとらえる」の違い。

第4時（最終時）に、「たった5音で創作をした」ということを強調しました。本題材で目指す姿に、「5音のつながり方を工夫することで様々な雰囲気生まれることを体感していくこのような学習を通して、「日本らしさ」について自分なりに考えを深めていくことができると考え、本題材を設定した」と書いたので、

- ① 前奏を完成させる
- ② 4~5人グループで発表し合う

【創作の授業なので、「創作の授業で、旋律をつくれることが大切だから、間違えちゃっても、聴いている人はその人がつくりたかった雰囲気を感じ取ってあげましょう」と言うことで、発表のための発表にならないようにした】

- ③ 同じイメージをもってつくった数人の旋律を弾く

【「散るって言葉がイメージの中に入っている人？」と聴いて、抽出生徒のつくった旋律を教師が弾く。つくった旋律によって様々な雰囲気が生まれることを感じ取ることができるようにする】

- ④ 日本音楽に対する自分なりの考えを書く

【第1時で聴いた「六段の調」をかけながら書きます♪】

こんな流れで授業を行いました。
実際に教育課程を行ったクラスの「日本音楽に対する自分なりの考え」を載せます。

自分はいかまで、日本音楽、と暗かたりあよりおもしろみがない
 と思つていましてが今日考へて、つきて、日本音楽、おもしろま
 ちつきました。た、た、さ、あ、い、かな、平調子、音階、下、三、三、下
 日本らしい音楽を、つくり上げることを、つぎの、おもしろいことだ
 せん、つと、血、く、音、を、捨、て、オ、ナ、リ、情、を、イ、メ、い、ま、か、ら、せん、り、つ、て
 つくつて、いく、こと、も、下、ま、い、な、い、な、と、思、い、ま、し、た。さ、か、て、今、日、や、つ
 日本音楽、つばらし、さ、に、あ、つ、く、こ、こ、が、下、ま、し、た。最近、下、三、三、下、
 な、と、日本、の、い、い、音楽、が、う、は、あ、つ、つ、あ、つ、と、思、い、ま、す、が、こ、こ、が、い、の
 けた、す、か、に、こ、の、日本、の、音楽、平調子、の、音階、さ、つ、つ、の、い、い、こ、う、こ、の
 す、ば、らし、さ、を、お、も、つ、て、い、け、ない、と、思、い、ま、す。

日本音楽は西洋のものよりも、おもしろい感じが感じられました。
 それは、た、た、の、五音、だけ、で、作、ら、れ、て、い、た、か、ら、な、か、。休符の使
 方が上手と思ひました。五音だからこその音と音のつながり。強張
 たり、一音一音が優しく包んでくくれるようです。こんな、ト、レ、ミ、
 ソ、ラ、シ、ド、の、音、を、作、つ、て、も、一、人、に、さ、ま、ま、の、考、え、の、差、は、な、い、の、だ
 と、思、う。五音だから、つ、て、少、な、い、音、だ、か、ら、つ、て、込、め、る、思、ひ、が、そ、の
 へ、れ、に、な、る、の、だ、と、思、つ、た。
 日本音楽は、リズムがゆったりとして、イメージが、あ、り、ま、した、か、ら、
 つ、て、大、切、に、し、な、け、れ、ば、な、ら、な、い、の、だ、と、感、じ、ま、した。聴き、入、つ、て、し
 ま、う、こ、の、ひ、き、る。雅な音楽。僕、は、日本、が、好、き、だ。

外国の音楽は色々な音で盛り上がるけど、日本
 音楽は五音だけで、静かな感じ。た、た、の、五音、で、
 イメージしたものが違ければ音の雰囲気も変わる。こ
 人によつてイメージしたものが同じでも音の細かな
 わせが、す、く、変、わ、つ、つ、す、く、思、う。日本音楽は、
 た、た、の、五音、だけ、で、下、ま、い、な、い、こ、う、の、は、お、驚、い、た、け、ど、
 た、た、の、五音、で、全、く、別、の、曲、が、た、く、す、ん、下、ま、い、た、こ、こ、に、も
 驚きました。人の心のままに、さ、さ、さ、ら、に、い、れ、た
 五音、だけ、で、お、も、つ、つ、世界、に、な、た、し、曲、の、雰、囲、気
 も、全、く、別、の、もの、に、な、つ、つ、思、つ、た。日本音楽は、外国の
 音楽と違つ、つ、す、く、こ、こ、い、い、な、と、思、い、ま、し、た。

日本音楽は、た、た、の、五音、で、意、外、に、も、た、く、さ、ん、の、情、景、を、表、現、す、る
 ことが出来るものだ。桜、酒、蒲、團、お、か、き、ち、な、し、さ、華、さ、
 い、ま、さ、か、の、を、表、現、す、る、に、は、い、う、た、ら、い、な、う、う、か、と、考、え、て、完、全
 オリジナルの日本の音楽を、つ、つ、つ、か、ま、た、日本音楽、特、に、
 五音、だけ、で、華、やか、さ、の、裏、に、あ、る、は、か、な、な、を、感、じ、さ、せ、る、よ、う、な
 藍色、だ、な、と、思、つ、た。どの、人、の、も、お、も、し、ら、い、エ、夫、が、あ、つ、て、
 い、い、曲、に、な、つ、て、い、る、人、だ、と、思、つ、た。五音、だけ、だ、か、い、粗、み
 合、わ、せ、る、の、は、簡、単、だ、け、ど、イ、メ、ジ、に、さ、う、よ、う、に、つ、く、る
 の、は、少、し、難、し、く、エ、夫、が、必、要、と、さ、れ、て、お、も、し、ら、か、た、

たった4時間の授業でしたが、こんなに様々なことを感じ、ますいっばいに書いてくれた生徒たちに感謝です。主事の先生に教わりましたが、この題材を通して、「日本音楽が好きになった!」「また何度でも聴きたい!」と思えるようにならなくても(思ってくれたら最高なのですが!),"日本音楽ってこういうものだ"という日本音楽の特徴をとらえることができれば、それは「良さ」や「美しさ」に行きつくことができたということなのだそうです。生徒の言うとおりに、「心のかたすみに、日本音楽のすばらしさを忘れない」、そのくらいで良いのです。お正月に箏の音色を聴いたとき、「最近洋楽ばかり聴いているな」と振り返ったふとした瞬間に、この題材で得たささやかな感動を思い出してほしいものです。